令和４年度　　浜松未来総合専門学校

学校自己評価・学校関係者評価　評価報告書

１．教育理念・教育目標

〈教育理念〉

建学の精神「技術者の育成をもって地域社会に貢献する」

〈教育目標〉

本校は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、工業分野における産業の発展に対応する情報処理、商業実務分野における実務教育と専門知識、教育・社会福祉分野における社会性と豊かな人間性、文化・教養分野における芸術性の素養と創造的技能並びに各分野に関連する専門技術についての教育を行い、有能な職業人、社会人の育成を通して、産業の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とする。

２．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①２年目となる本校の学科横断の教育プログラムの更なるブラッシュアップと、教育実績の積み上げにより、ステークホルダーの満足度向上、信頼度向上を図る。

②「就職実績は教育の成果」の意識を高め、地域に信頼され、評価される専門学校になるために、地域、産業界・企業との結びつきをより強化する。

③教育力と、新しい教育システムへのチャレンジを前面に出したきめ細かな広報活動の展開により、募集目標定員（３２１名）を確保し、地域における浜未の認知を定着させる。

④教職員エンゲージメントの向上を目指し、学校運営を「協力体制から協働体制」へ適正化を加速し、第四期中期計画１年目の計画を確実に実行する。

３．評価項目の達成及び取組状況

評価方法：　４（適切）→　３（ほぼ適切）→　２（やや不適切）→　１（不適切）

（１）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は何か	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
	学校自己評価　平均	4

成果と課題

①教育理念並びに教育目標は、学校ホームページや全学生に配布する学生便覧にて明確に掲載している。

②高い専門知識と技術（専門性）と、社会人として基礎的・汎用的能力（ジェネリックスキル）の育成

③学校の将来構想については、法人内専門学校５校の中期計画として計画、実行されている。

④学校及び学科の育成人材像は、学校説明会やオープンキャンパス等で説明している。また、学生に対しては、入学時のオリエンテーション（修学基礎）、保護者に対しては後援会総会にて説明している。

⑤教育課程編成委員会、シナリオサポート企業と連携して、業界のニーズの把握に努め授業展開している。

今後の改善方策

・引き続き、学校生活や学校の取り組みについては、ホームページ上での情報発信の機会を増やし、多くの方への周知を図る。

・教育課程編成委員、シナリオサポート企業の段階的な拡充により、多くの旬な業界ニーズの把握に努めている。

学校関係者　評価コメント

・専門知識と技術以外にも、社会人として基礎的・汎用的能力に着目されているのが素晴らしいと感じた。

・掲載するだけでは見てくれない。学生へ説明はしているのか？

・各企業では、朝礼等で企業理念の徹底を図っている。

・教育理念並びに教育目標を明確に掲載されていることは良いこと。とくにホームページは見やすくてよい。

・高等学校卒業後の職業教育に大きな役割を担う機関として設置の目的が明確であり、適切に公表されている。

・学内の学生や保護者への周知は徹底されていると感じた。

・授業で関わる企業側にも具体的に知らせていただくと、伝える言葉が変わってくるのでは。

・変化し続ける教育・就職環境に対応していく姿勢は、今後も継続する価値のあるものと感じた。

・静岡県の目指している VIRTUAL SHIZUOKA と言った IT 強化の目指している目標に沿った経営をすることで更なる地域も含めた発展が臨めると思った。

・1-3 について、コロナ禍によってオンラインミーティングの常用化といった一部 IT 技術の社会的ニーズが変化したものがあると思う。御校グループは様々な教育分野を抱えていると思うが、将来構想を一部修正しても良いかと思う。

・オープンキャンパスでの説明は覚えていると思うので引き続きお願いしたい。

学校関係者評価	**3.9**

（２）教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施･評価体制はあるか	3
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3

2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
	学校自己評価　平均	3.8

成果と課題

①全科目のシラバスは、ホームページ上に公開している。また、各科目における授業開始の際には、学生に対してシラバスに沿って授業計画や到達目標等を説明している。

②教育到達レベルや学習時間は、学生便覧やシラバスに記載している。

③産業界・企業と創る「人財育成目標」に基づいた「人財育成シナリオ」を構築し、複雑化・多様化する分野に合わせ細分化した「小シナリオ」の中に目標達成に必要な科目を配置している。

④教育課程編成委員会にて助言頂いた取り組みは、速やかに授業へ反映させている。

⑤職業実践専門課程のもと、企業連携による実践的な職業教育が体系的に位置づけられている。

⑥年度を３回に細分化し、授業評価アンケートを実施している。年度末には学生アンケートを実施している。

⑦成績評価、単位認定は教務規定に沿ってシラバスに記載されている。

⑧資格取得については、各科で重点資格を位置づけ、受験、合格に向けた指導体制のもと授業運営をしている。

⑨各授業科目において、実務家教員が担当する授業であるか、授業科目に見合った講師の採用に努めている。

⑩すべての学科（留学生学科を除く）において先端的な技能向上を図る研修に参加した。指導力向上を図る研修には全員参加した。

⑪カリキュラム見直しは、職業実践専門課程申請予定学科を含む、職業実践専門課程学科では、教育課程編成委員会を開催（年２回）し、外部委員の協力のもとカリキュラムの作成・見直しを図っている。

⑫目標に到達しない学生に対するフォローは、個別面談や放課後補習等により対応している。

今後の改善方策

・授業評価にて収集されたアンケート結果において、２件の面談を実施し改善すべき案件に速やかに対応を図った。集計結果を全ての講師へのフィードバックに時間を要している。引き続き、授業終了後に速やかに授業評価を実施する仕組みを体系化する。

・３名の専任教員採用に至ったが、教育人材の確保については常に課題である。非常勤講師を含めて、各学科とも専門性の高い領域であるため、採用においてもマッチする人材がいない。継続的に、ホームページ掲載や人材派遣サービスの利用等、講師募集要項を周知させる。

学校関係者　評価コメント

・オンライン授業のやり方を工夫していく必要がある。

・資格について、取得することが個人として優位になることを教える必要がある。

・目標に達成しない学生に対するフォローが素晴らしい取り組みである。

・教員の人材確保は引き続き取り組んで欲しい。
学校としての核である講師のクオリティを担保することが学校への評価が学生満足度へ直結する。そのため「教える」技術向上へのレクチャーを通してクオリティの平準化が求められる。

・ブライダル・ヘアメイクは日々トレンドが変わっていくので、より良い教員採用を目指していただくとともに、最前線の現場で働く方々とのパイプを持っていただきたい。

・小野先生を始めとした現職教師・講師の貴重な意見を拝聴した。未来を創る教育には、先生も現行企業等で利用さ

れている IT 知識が必須であることを感じた。

・AI を含む IT の知識教育は、既存経験者を採用する形式では現場から遅れてしまう。幸い IT 知識はオンラインで収得できるが、残念ながら資格獲得のプロセスからは外れる。資格獲得に重きを置くか、実務に重きを置くか専門学校の立場では悩ましいと思う。

・静岡県は VIRTUAL SHIZUOKA を推進しており様々な分野で IT の利活用を進めている。その中、先生の IT リテラシー不足で学校活動の IT 化が遅れるのは非常にもったいない。先生への IT 教育評価も入れてはどうか。

・詰込み教育をそのままオンライン化しても諸先生方が指摘した通り対面より効果が落ちるのは当然かと思う。先生が 8 割話す授業から生徒が 8 割話す授業への転換が必要かと思う。

・アンケート回数を増やしたことで意見を反映させやすくなったと思う。

・年 3 回の授業アンケートの実施及び全講師へのフィードバックが更なる事業改善につながることを期待する。産業界との連携による多様な学びのニーズに対応する体制が整っている。

・アンケートの集計・フィードバック・評価・改善・実践のサイクルが速やかにできるとより良いと思う。

・産業界との連携を更に強く、社会の求める能力・資質をカリキュラムに反映できるよう、引き続きお願いしたい。

・非常勤講師への依存度が高まる中で、講師との意思疎通や講師へのサポートなどが充分行えているか。また、講師のオンライン授業の事前準備負担増をどのように考えていくかも問われて良いと思う。

・教職員が一丸となって熱心に取り組まれていると思う。

学校関係者評価	**3.7**

（3）教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	3
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
	学校自己評価　平均	3.5

成果と課題

①就職内定率 99.7%、専門職内定率（履修した分野に係る企業等への内定割合）86.1%を達成した。

②資格取得では、年度初めに目標合格率(数)を掲げ対策授業を講じている。計画と実施と検証のサイクルを実施。

③退学率は 4.9% (昨年 4.5%)であった（進路変更 37%、学習意欲 22%、精神的 17%、病気 10%、経済的 7%、家庭事情 5%、その他 2%）。AO 学生の進路変更が 5 名おり、AO への取り組みに改善の余地がある。

④同窓会は継続的に運営されている。卒業生の社会的な活躍については同窓会より情報提供を受けている。
在校生の教育成果発表の場として「浜松未来ウィーク」（卒業制作展）を開催した。

今後の改善方策

・各科重点資格として位置づけられているものについては、目標必達として引き続きＰＤＣＡを回していく。

・退学率が微増してしまった。法人より導入する休退学防止の AI ツール活用による休退学兆候者判定の精査、退学に至る前の早期対応をさらに心がけて、学生のケアに努める。
また、AO 入試での面談（オープンキャンパスでの学科説明を含む）においては、目指す職業、本校の取り組む学習内容の説明に更なる時間を注ぎ、入学後の進路変更による退学者の削減に努める。

・本校と専門学校浜松デザインカレッジの同窓会合併への取り組みが進んでいる。

学校関係者　評価コメント

・学生は将来を見て学科を選んでいるか？勉強しながら次を見つけるので、進路変更はあってもよいのでは？
・高い就職内定率は素晴らしい。
・入学する前の方々への職種ごとのリアルな姿を伝えておくことが、イメージと現実とのギャップを埋める。ひいては退学者の減少につながるのではないか。
・入学時の選定で必要と感じる反面、入学後にその職業についての大変さや厳しさを教えつつ、やりがいや魅力なども教えていくことも必要ではないか。
・専門学校は社会で使える実践力を身につける学びが充実しているところが特徴だと思っており、専門職内定率が重要な尺度だと思う。松本校長のおっしゃっていたリブランディングに期待する。
・専門学校は地域社会のニーズに迅速に対応し、就職を有利に進めるところが強みになると思った。迅速な対応を実現するには、現場ニーズの吸出し・ニーズの変化に対応したカリキュラム・変更を許容するシラバスが必要。変わらない資格への教育と変わるニーズへの教育が切り分けられると強みを維持発展できるのでは。
・退学率の微増は今後の改善に役立てて欲しい。
・退学率に関しては難しい問題だと思うが、引き続き対応していくしかないと思う。
・留学生受け入れ学科は、日本語学院在学以上の魅力を感じてもらえるような日常の提供が望まれるのではないか。専門的知識・技能の収得と同時に、日々通学するメリットを感じさせるプログラム、指導が望まれるのではないか。学ぶ魅力と共に暮らす魅力を。
・高等学校における進路ガイダンス等での情報提供は、生徒が進路を考える上で参考になっている。社会の状況や業界のニーズに合わせて学科設置は必要なこと。入学前のイメージと業界の現実に差があるのは仕方ないが、可能な範囲での情報提供をお願いしたい。
・専門職内定率が目標を達成しておりすばらしいと思う。

学校関係者評価	**3.6**

（４）学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
	学校自己評価　平均	4

成果と課題

①職員室内に就職担当を配置し、学科担当と協力のもと学生の就職相談には常時対応している。
学内企業説明会を 165 社企画した。
②学科担当によるホームルームや個別面談を実施している。スクールカウンセラーによるカウンセリングをプライバシーに配慮して受けられる体制を整えている。オンラインによるカウンセリングも随時可能である。
③「高等教育の修学支援制度」の認定を受けている。またこれまで通り、学生支援機構の奨学金制度や提携するク

レジット会社の教育ローンを低金利で利用できる。

④毎朝検温アプリによる体調管理をはじめ、看護師経験をもつ職員より、日頃から健康相談が受けられる。

⑤保護者から成る後援会が組織されており、学校に事務局を設置している。学生指導として出欠席指導、成績不良者に対する保護者連絡等は常に実施しており、学生の変化を状況に応じて情報を共有する体制をとっている。

⑥卒業生から成る同窓会が組織されており、学校に事務局を設置している。定期的に同窓会を開催して卒業生の動向把握に努めている。また、卒業生への再就職支援体制を継続的に運営している。

⑦高等学校と連携を図り、キャリア教育・職業教育を各種職業分野において実施している。

⑧課外活動として、学校全体規模でバス遠足や、学科ごとに教育上必要な施設見学や展示会見学等を実施する際は、保護者による学校後援会組織からの支援を受ける体制を整えている。

今後の改善方策

・新型コロナウイルス感染症（５類）による学内運用を、インフルエンザ対応に倣い整備し学生へ周知していく。

学校関係者　評価コメント

・適切に支援されている。新型コロナウイルス感染症が５類に移行されたことでの運用の変更点を、学生へ適切に周知して欲しい。

・学校（生活）への満足度は教育内容５０％、学生生活５０％ではないか。むしろ授業時間外の余白にこそ人間的成長を促すものがある。コロナ以前のように学内を自由に使わせて欲しい。

・特に 4-6 再就職支援という点で、本人の努力も大切だが、より専門性の高い就職相談窓口として御校が在り続けてくださると、とても心強い。

・奨学金の利用者が多いことが衝撃だった。奨学金を利用しなければならない状況にいる学生がそれだけ多い理由が気になった。

・学生相談の件数、傾向が気になった。学生が相談しやすい環境作りはすごく難しい。会社でも同様の機関を設けているが実際は 3 ケ月に 1 人程度。それも、相談室の人間が話しやすい関係が築けている人に限られる。学生から見ると先生は大人でなかなか相談できないと思うが、どのように相談できる環境を維持されているのか。

・関係組織による学生支援の体制が整っている。同窓会による再就職支援は心強いが、実際にどの程度の卒業生が相談にきて再就職を果たしているのか、また 3 年以内の離職率についても次の機会にご教示いただきたい。(可能であれば)

・適切な支援を実施されていると感じる。

・コロナが落ち着いてきたので学生支援がしやすくなると思う。

・引き続き丁寧な指導をお願いしたい。

学校関係者評価	**3.9**

（５）教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
	学校自己評価　平均	4

成果と課題

①講義室、実習室は管理担当者（教員）を割り当てている。ソフトウェアについても定期的にバージョンアップを図っている。

②実習室及び教室は原則自習室として開放しているが、コロナ禍の状況を鑑みて、放課後は速やかに下校するよう呼び掛けている。図書は、各科で専門書を購入して教室や実習室で自由に閲覧できるよう整備している。

③全ての教室にノートパソコン、タブレット、Web カメラ、プロジェクタを設置し、対面授業とオンライン授業をあわせたハイブリッド授業を運用している。

④各科教育上必要な実習室や設備など、学習をするための環境は整っている。

⑤防災マニュアルが整備されており、毎年全校生徒を対象に避難訓練を実施している。

今後の改善方策

・引き続き、学生数や人材育成目標に見合った機材整備に努めていく。

学校関係者　評価コメント

・ハイブリッド授業は対面にはない利便性があって良いが、最近ではメディアを使用したときの脳の働きについてのエビデンスが多くでてきている。オンライン授業の使い過ぎには注意が必要。

・ＣＡＤデザイン科の実習室と講義室が分かれて、講義がやりやすくなった。

・各部屋にハンガーがあればよい。

・昨今自然災害が増加しているため、防災マニュアルを活かした訓練を実施して欲しい。

・放課後の学生同士の自由な議論を活発にできる場を学校は提供してあげて欲しい。

・コロナ禍を経て、企業ではオンライン会議が常態化した。学生同士、先生同士、オンライン授業向けの練習施設として、IT 関係以外の科でも施設を利用できるといい。

・最近の学生はスマートフォン慣れしていて、会社で仕事をする際に必要なファイルシステム(ディレクトリーやドライブ)を知らないまま入社してきて困ることが多い。学校の PC を使うことでファイルシステムに慣れ親しんでほしい。

・新 iMac はうらやましい。

・最新の機材が揃っていると知り、とても恵まれた環境だと感じた。

・教育施設として素晴らしい環境である。

・引き続き機材の整備をお願いしたい。

・学校の設置目的に合った教育環境が整備されており、適切に運用されている。また近隣の企業施設の利用環境もあり、より現実に近い実習を期待する。

・オンライン、オフラインどちらの授業でも対応できる設備が整っており良いと思う。

・コロナ５類以降も荒天などでオンラインの機会は必ずあるので、有効に活用して欲しい。

学校関係者評価　**3.8**

（６）学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4

学校自己評価　平均	4

成果と課題

①②入学案内・募集要項については、毎年見直しを図り、虚偽のない正確な情報掲載を常に努めている。

③オープンキャンパスは毎月１～２回（ピーク時は学年別に４回）開催、入学選考は１０月以降月１回実施し、３月は志願者ごとに随時実施している。

④学習内容をはじめとする作品の成果物、資格取得、就職実績などの教育の成果は、ホームページ、パンフレット、オープンキャンパス時の学校・学科説明にて伝えている。

⑤学納金については、教育の質の維持・向上、施設設備、消費税率など内外の要因を見極め、内部の効率的な運営に努めながら法人全体で適切に判断している。

今後の改善方策

・今後も継続して、対象者にわかりやすく情報を整理し紳士的な募集活動を行っていく。

学校関係者　評価コメント

・留学生の募集をどのように行っているのか。
・企業との協力関係により募集がなされているのか。
・学生の募集と受け入れのゴールは専門学校では専門職内定率の向上、退学者 0 になることと思っている。3-3 の御校の評価が 3 であることへの対策が久野様の範疇に全くないのが気になった。
・多くの学生は大企業の名前だけ知っていて、その中の細分化された仕事、大企業では担うことのできない中小企業に頼っている仕事があることを知らずに就職活動をしていると感じる。地域に根付いた会社の社会貢献の大きさを伝える機会があると、学生募集活動がより有意義なものになるかと思う。
・子ども保育、福祉の内定率の高さが参考になるかと思った。
オープンキャンパスが高校生との最もつながりのあるイベントだと思うので引き続きお願いしたい。
・学生募集の内容は大変すばらしい。引き続き頑張って頂きたい。
・「盛る」ことなく学校の姿を伝えられている。
・丁寧な共有をいただいていると感じる。
・貴校の教育理念や教育目標及び教育環境や成果に基づく適切な学生募集が行われている。
・多様な媒体で教育活動・成果を広報しており、しっかり PR できている。

学校関係者評価	**3.9**

（７）教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的に実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	3
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意思決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4

7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
	学校自己評価　平均	3.9

成果と課題

①法人内人事評価制度に従い実施している。②統合により、教務・総務・広報・就職部門間が連携して業務上の様々な問題解決に取り組んできた。さらに教務においては４カレッジにおける運営も、浜未として初の卒業生を輩出し、１つの形として完成形を迎えた。部門間、カレッジ間の様々な業務において、改めて情報の共有を図り、更なる改善に向けたレビューが必要である。③④非常時における危機管理対策については、法人全体での対応が周知されており、学校毎の消防等安全に対する対応は常に行っている。避難訓練は毎年実施している。⑤⑥⑦学校としての教育目的、事業計画に沿った運営方針は毎年策定され、学校組織の体制も常に見直しを行っている。⑧⑨就業規則を含む諸規程は整備されており、一部抜粋が規程集として全職員に配布され、また全ての規程集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。⑪業務を遂行するための各種情報システムは整備されているものの、カレッジによる特徴あるカルチャーは、全校的な運営体制の統一の壁となっている。ガバナンス統制、効率化の観点から、引き続き更なるDX化の推進が必要である。⑩⑱⑲教育活動に関する情報公開はホームページやパンフレット等を通して最新の情報を提供している。自己評価本評価についても公開している。⑫⑬⑭⑮⑯予算主義を基本とした運営に努めており、財務情報の公開、会計監査など経営上必要となる法令、設置基準に必要な法令は遵守している。⑰個人情報の取り扱いについては教職員への教育・指導を行っており、現時点で問題となる事例は発生していない。⑳ハラスメント防止のための委員会を設けている。

今後の改善方策

引き続き、健全で効率的な経営に努める。法令順守を徹底し、全てのステークホルダーからの信頼維持に努める。
また、業務の標準化も継続的に取り組んでいく。

学校関係者　評価コメント

・教務日誌システムを統合すべき。

・業務の標準化・システム化には変えようとするパワーが必要である。頑張って欲しい。

・大規模な組織を健全に維持するには多くの決まり事を遵守する必要がある。決まり事の中で・新しいことに対応する苦労は推し量って余りあるものと思う。

・様々な法令としきたりとしがらみの下での学校運営は非常に難しいものがあると感じた。何を変えられるかの提案は現場が、何を変えるかは校長ができるのでは。校長、現場が同じ目標を共有することで教職員のエンゲージメントの向上が実現できると信じている。

・各部署間の連携はまだうまく進められないかもしれないが、大事なことなのでうまく推進をお願いしたい。

・「目標・計画④」の教職員エンゲージメントは大切な評価項目だが、残念ながら「成果と課題」にあがっていないの

はいかがなものかと思う。ぜひ、評価項目を設けていただきたいと思う。

・健全な学校運営をされていると思う。

・いろいろある中で、うまくやっている。

・先生方にはいつも丁寧に対応いただきありがとうございます。

・引き続きガラス張りの情報提供に基づく経営・運営に期待する。

学校関係者評価	**3.9**

（８）社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
	学校自己評価　平均	4

成果と課題

①高等学校対抗のワープロ競技会、中学校/高等学校などからの職業体験授業実施等、各種専門分野においての受け入れ、施設活用を多数行っている。

②③留学生に対しての在留更新や生活サポートなど分掌担当者を取り決め、各種法令に従った適切な受け入れ手続きを行っている。

今後の改善方策

地域貢献につながる取り組みをさらに強化し、開かれた学校として施設利用の促進を行っていく。

学校関係者　評価コメント

・地域社会に溶け込むための指導が必要で、留学生が日本に溶け込むための学校始動が必要ではないか。

・中学校、高等学校からの職業体験授業や施設活用の受け入れは、素晴らしい取り組みである。今後も継続いただきたい。

・専門性もさることながら、人間力の高い人材を輩出していただきたい。

・学校側で企画している発表会やイベントなどぜひ見学に伺いたい。ご連絡いただけると幸いです。

・社会貢献・国際交流は一般的な SDGs を念頭に置くのではなく、専門学校の目的に沿った内容にした方が継続できると思う。

・専門学校の社会貢献・地域貢献については、一般的な企業のものとは異なって良いと思う。実践的な職業教育により地域の即戦力を下支えすることを目標とするのであれば、御校の強みに直結する社会貢献・地域貢献を優先して良いと感じた。

・引き続き社会・地域への貢献をお願いしたい。

・地域との連携を大切にし、地域に愛される学校を目指していただきたい。

・社会や業界のニーズに応じた留学生の受け入れ支援を継続していただくとともに、学生の学びを活用した社会貢献活動への参画が今後ますます活性化することを期待する。

学校関係者評価	**3.9**